



平成28年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年1月15日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アイデアインターナショナル
コード番号 3140 URL <http://www.idea-in.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森 正人
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営情報部長 (氏名) 松原 元成

TEL 03-5446-9505

四半期報告書提出予定日 平成28年1月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第2四半期の業績(平成27年7月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第2四半期	3,052	4.3	57	△40.6	28	△7.9	26	873.4
27年6月期第2四半期	2,925	—	96	—	31	—	2	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
28年6月期第2四半期	4.40		—	
27年6月期第2四半期	0.46		0.46	

(注)平成27年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
28年6月期第2四半期	3,152		376		11.6	
27年6月期	3,089		352		11.0	

(参考)自己資本 28年6月期第2四半期 364百万円 27年6月期 340百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年6月期	—	0.00	—	—	—
28年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 平成27年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。平成27年6月期の期末配当については、当該株式分割前の実績を記載しております。

3. 平成28年6月期の業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	6,362	6.0	260	4.5	211	28.7	201	94.7	34.12

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年6月期2Q	6,087,000 株	27年6月期	6,087,000 株
② 期末自己株式数	28年6月期2Q	187,344 株	27年6月期	187,344 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年6月期2Q	5,899,656 株	27年6月期2Q	5,761,666 株

(注)平成27年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の監査手続を実施しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式分割についてのご注意)

当社は、以下の通り株式分割を行っております。

平成27年7月1日付 普通株式1株につき2株

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

平成28年6月期第2四半期累計期間(平成27年7月1日～平成27年12月31日)の業績は、平成27年6月期第2四半期累計期間に比べて、売上は3,052百万円(前年同期2,925百万円)と126百万円の増収となりました。今期は戦略的に広告宣伝費を投入しているため、経常利益は28百万円(前年同期31百万円)と2百万円の減益となりましたが、四半期純利益は26百万円(前年同期2百万円)と23百万円の増益となりました。

売上については、インテリア雑貨において、キッチン雑貨を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が好調に推移し、中でもデザイン性に優位性のある「ホットプレート」は引き続き計画以上に売上を伸ばしております。またトラベル商品ブランド「ミレスト」は「トラベルショップ ミレスト」5店舗に、新たにトラベルショップの新業態「トラベルスタイル バイ ミレスト」3店舗が加わったことにより、順調に売り上げを伸ばし、売上高は3,052百万円(前年同期2,925百万円)となりました。

利益については、前述の広告宣伝費の増加等により、営業利益は57百万円(前年同期96百万円)、経常利益は28百万円(前年同期31百万円)、四半期純利益は26百万円(前年同期2百万円)となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

住関連ライフスタイル商品製造卸売事業においては、前述の通り、ホットプレート等のキッチン家電を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」等自社商品ブランドが好調に推移したことで、売上高1,863百万円(前年同期1,759百万円)、営業利益231百万円(前年同期307百万円)となりました。

住関連ライフスタイル商品小売事業においては、不採算店舗等5店舗を閉鎖いたしました。トラベルショップ「ミレスト」及びインテリア雑貨ショップ「イデアセブンスセンス」の売上が前期比を上回り、また販売強化を進めているEコマースにおいても広告効果等の影響により売上が前期比を大きく上回ったことから、売上高1,188百万円(前年同期1,166百万円)、営業利益120百万円(前年同期56百万円)となりました。

今後、「トラベルショップミレスト」「トラベルスタイル バイ ミレスト」の積極的な店舗展開と広告宣伝等によるEコマース販売強化により売上拡大を図り、また健康コーポレーショングループとのシナジーを最大限に活用することで、増収増益を果たす所存であります。

(2) 財政状態に関する説明

1. 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における総資産の残高は、3,152百万円(前事業年度末は3,089百万円)となり、63百万円増加しました。

流動資産は、2,720百万円(前事業年度末は2,726百万円)となり、6百万円減少しました。これはその他の増加(38百万円)、商品及び製品の増加(9百万円)等があったものの、現金及び預金の減少(37百万円)、受取手形及び売掛金(純額)の減少(28百万円)等があったことによるものであります。

固定資産は、432百万円(前事業年度末は362百万円)となり、69百万円増加しました。これは有形固定資産の増加(42百万円)及び無形固定資産の増加(26百万円)等があったことによるものであります。

流動負債は、2,421百万円(前事業年度末は2,377百万円)となり、44百万円増加しました。これは支払手形及び買掛金の減少(31百万円)等があったものの、短期借入金の増加(12百万円)及びその他の増加(67百万円)等があったことによるものであります。

固定負債は、354百万円(前事業年度末は359百万円)となり、4百万円減少しました。これはリース債務の増加(22百万円)があったものの、長期借入金の返済による減少(22百万円)及びその他の減少(4百万円)等があったことによるものであります。

純資産は、376百万円(前事業年度末は352百万円)となり、24百万円増加しました。これは資本剰余金の減少(976百万円)等があったものの、利益剰余金の増加(1,002百万円)があったことによるものであります。

2. キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末の残高589百万円に対して37百万円減少し、552百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は25百万円(前年同期は9百万円の使用)となりました。

これは、たな卸資産の増加(20百万円)及び仕入債務の減少(31百万円)等の資金の減少があったものの、税引前四半期純利益(27百万円)、減価償却費(27百万円)、売上債権の減少額(26百万円)等による資金の増加があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は47百万円(前年同期は0百万円の取得)となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出(53百万円)等による資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は15百万円(前年同期は118百万円の取得)となりました。

これは、短期借入金の純増(21百万円)による資金の増加があったものの、長期借入金の純減(30百万円)等による資金の減少があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成25年8月11日の決算短信で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	589	552
受取手形及び売掛金(純額)	655	627
商品及び製品	1,040	1,049
仕掛品	19	26
原材料及び貯蔵品	86	90
その他	335	374
流動資産合計	2,726	2,720
固定資産		
有形固定資産	160	202
無形固定資産	28	55
投資その他の資産	173	173
固定資産合計	362	432
資産合計	3,089	3,152
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	447	415
短期借入金	1,628	1,641
未払法人税等	4	—
引当金	24	24
その他	272	339
流動負債合計	2,377	2,421
固定負債		
長期借入金	277	254
リース債務	35	57
受入保証金	29	29
引当金	2	2
その他	14	10
固定負債合計	359	354
負債合計	2,736	2,775
純資産の部		
株主資本		
資本金	58	58
資本剰余金	1,343	366
利益剰余金	△976	26
自己株式	△82	△82
株主資本合計	342	368
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△2	△4
評価・換算差額等合計	△2	△4
新株予約権	12	12
純資産合計	352	376
負債純資産合計	3,089	3,152

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
売上高	2,925	3,052
売上原価	1,672	1,752
売上総利益	1,252	1,299
返品調整引当金戻入額	6	6
返品調整引当金繰入額	7	5
差引売上総利益	1,252	1,301
販売費及び一般管理費	1,156	1,243
営業利益	96	57
営業外収益		
その他	0	3
営業外収益合計	0	3
営業外費用		
支払利息	19	13
為替差損	42	—
株主関連費用	—	12
その他	3	6
営業外費用合計	65	31
経常利益	31	28
特別損失		
減損損失	2	1
保険解約損	12	—
その他	0	0
特別損失合計	15	1
税引前四半期純利益	15	27
法人税等合計	13	1
四半期純利益	2	26

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	15	27
減価償却費	38	27
保険解約損益(△は益)	12	—
減損損失	2	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8	1
支払利息	19	13
売上債権の増減額(△は増加)	△134	26
たな卸資産の増減額(△は増加)	△198	△20
仕入債務の増減額(△は減少)	152	△31
その他	115	△0
小計	14	44
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△16	△12
法人税等の支払額	△8	△6
営業活動によるキャッシュ・フロー	△9	25
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△19	△53
無形固定資産の取得による支出	△9	△2
敷金及び保証金の差入による支出	△13	△0
保険積立金の解約による収入	28	—
その他	13	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	△47
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△34	21
長期借入れによる収入	—	50
長期借入金の返済による支出	△36	△80
株式の発行による収入	186	—
その他	3	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	118	△15
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	109	△37
現金及び現金同等物の期首残高	307	589
現金及び現金同等物の四半期末残高	416	552

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成26年7月31日付で、健康コーポレーション株式会社及び株式会社ジャパングヤルズSCから第三者割当増資の払い込みを受けました。この結果、資本金が75百万円、資本準備金が75百万円増加しております。

また、平成26年10月1日付で、機動的かつ効率的な運営を推進するための資本政策に備えるための無償減資を実施いたしました。この結果、資本金が75百万円減少し、その他資本剰余金が75百万円増加しております。

さらに、平成26年12月8日付で、マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社に新株予約権を付与いたしました。この新株予約権の行使の結果、当第2四半期会計期間末において、資本金が11百万円、資本準備金が11百万円増加し、資本金が111百万円、資本剰余金が1,273百万円となっております。

当第2四半期累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成27年9月29日開催の定時株主総会に基づき、繰越利益剰余金の欠損補填を目的として、資本準備金270百万円をその他資本剰余金へ振り替えております。また、その他資本剰余金976百万円を繰越利益剰余金に振り替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	住関連ライ フスタイル 商品製造 卸売事業 (百万円)	住関連ライ フスタイル 商品小売 事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
外部顧客への売上高	1,759	1,166	2,925	0	2,925	—	2,925
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,759	1,166	2,925	0	2,925	—	2,925
セグメント利益	307	56	363	—	363	△267	96

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オフィス・店舗空間のコンセプト・デザインを企画する空間プロデュース事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△267百万円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「住関連ライフスタイル商品小売事業」セグメントにおいて、2百万円の固定資産減損損失を計上しております。

当第2四半期累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	住関連ライ フスタイル 商品製造 卸売事業 (百万円)	住関連ライ フスタイル 商品小売 事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
外部顧客への売上高	1,863	1,188	3,052	—	3,052	—	3,052
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,863	1,188	3,052	—	3,052	—	3,052
セグメント利益	231	120	352	—	352	△295	57

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オフィス・店舗空間のコンセプト・デザインを企画する空間プロデュース事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△295百万円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「住関連ライフスタイル商品小売事業」セグメントにおいて、1百万円の固定資産減損損失を計上しております。